

日本銀行決済機構局長の神山です。第3回の開催となるクロスボーダー送金分科会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

昨年5月に第1回の分科会を開催してから1年ほど経ちますが、新型コロナの影響はなお続いております。ポストコロナの経済回復と社会の変革、とりわけ、デジタル化の加速を展望しますと、クロスボーダー送金を含む決済の効率化を進める必要性はこれまで以上に高まっていると思います。

クロスボーダー送金の改善に向けたグローバルな取り組みはG20のロードマップに沿って始まっておりますが、日本銀行としては、日本の関係者の見方を踏まえて国際的な議論に参加することが重要と考えております。クロスボーダー送金の課題は国や地域によって異なるため、各国がそれぞれ直面する課題を理解し、関係者のコミットメントを得ながら取り組みを進めることが改善の実現の鍵になると考えております。デジタル化などを踏まえたサービスユーザーのニーズの変化や、技術革新がもたらす可能性なども踏まえて、日本におけるクロスボーダー送金の将来像を考えるため、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

本日の分科会では、金融安定理事会が市中協議を開始した、クロスボーダー送金の課題に対処するための定量的な目標を中心とした足もとの国際的な議論をご紹介するほか、これまでの分科会でも効率化によるコスト削減が必要と指摘されたAML/CFT対策について取り上げます。また、個々の送金事業者におけるクロスボーダー送金ビジネス関連のお取り組みについて、ご紹介いただきます。